



下二俣町にある小型機用の有蓋掩体壕。竹林は一部伐採されていて見学しやすくなっている(私有地のため立入禁止)。



# 伝説と歴史の舞台を歩く ぬのびき 布引丘陵

DATA 東近江市

- 歩行距離▶約4km
- 歩行時間▶約1時間15分

## 竹林に眠る戦争遺跡 掩体壕をめぐる

戦時中の市井の人々を描いたアニメ映画『この世界の片隅に』が、戦争を知らない若い世代の共感を呼び、大きな話題となったが、私たちの身近な場所にも戦争の語り部となるべき風景がまだまだ残っている。

東近江市の布引丘陵一帯にある「掩体壕」がそのひとつ。掩体壕とは、航空機を敵の空襲から守るために造られたコンクリート製の格納庫である。東近江市沖野にはかつて日本初の民間飛行場があり、大正時代に陸軍八日市飛行場に転換された。大戦末期には、米軍の本土空襲が激しくなることを予測し、全国にある航空基地の周辺に急いで掩体壕が造られたという。布引丘陵北麓の歩行者自

沖野の町に飛行場の名残はほとんど見当たらないが、隊員の安全と連隊の守護神として建てられた沖原神社がある。境内には戦没者慰霊碑があり、広場に飛行第三連隊本部の門柱だけが残されている。



飛行第三連隊本部跡の門柱  
▶沖原神社 / 南部御園線「葵町」バス停より徒歩6分、沖野玉緒線「東沖野1丁目」バス停より徒歩10分

転車専用道をたどると2基の有蓋掩体壕が確認できる(この他にも土製の掩体壕がいくつかあるらしい)。朽ちはいるが原型をとどめ、その威容に驚かされる。現地説明板によると、爆弾の直撃から守るといふより、至近弾の破片を防ぎ、航空機を隠す目的が強く、コンクリート製

の壕の上に土を盛って、草木が植えられていたようだ。今ではそれらの記憶を封印するように竹林の中に眠り、目の前にはのどかな田園風景が広がっている。時にはこれらの貴重な遺構に目を向け、平和の大切さを忘れなようにしたい。

### “Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな「近江」という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょうか。



### モデルコース

- 近江鉄道大学前駅 15分、見送り稲荷神社 20分、掩体壕(柴原南町) 10分、宮溜調整池 2分、掩体壕(下二俣町) 15分、玉緒神社 7分、柴原南バス停
- ※移動時間はあくまでも目安です(休憩時間等含まず)。  
※柴原南バス停(八日市駅行)は便が少ないので「ちよこつバス」時刻表(東近江市HP)を要確認。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!

<http://www.keibun.co.jp>

